

陽の里

発行 平成18年4月15日

社会福祉法人 新生会

総合ケアセンター

サンビレッジ



No.91

2006年 サンビレッジ新生苑、創設30周年 記念号



▲「サンビレッジ大垣・サンビレッジフーズ」満開の桜の中で

三十周年を迎えて

社会福祉法人 新生会 理事長

石原 美智子

三十年前の四月十五日に、社会福祉法人「新生会」が運営する特別養護老人ホーム「サンビレッジ新生苑」がこの世に誕生しました。

池田町の中心地に病院と併設され、広い敷地の隅々まで造園された老人ホームの出現は、当時の日本では珍しいものでした。前理事長が高い理想を掲げて高齢者介護の礎を築いた第一歩でした。

前理事長の思いを引き継ぎ、運良くオーストラリアと出会ったことで見えてきた道筋を、介護現場での専門性の追求と、地域と共にいる運営を心掛けました。でも、「地域と共に」ある」というテーマは、私自身は前理事長と異なり、地域との伝統的な関わり方は不得手で、全く異なった、サービスの提供という形で実行していきました。在宅サービスを提供する株式会社の運営、専門学校の創設、特定非営利活動法人による地域活動などがそれです。

三十年前の、夢ばかり見ていた自分の姿を思い返すと、信じて共に歩んできてくれた多くの仲間達のありがたさが改めて身に染みます。三十周年を記念して私達は共に歩んできた仲間と共に「尊厳を支えるケアを目指して」という本を上程しました。これは私達が海外から学んで手探りをしながら求めてきた道の現在の姿です。

三十年前に、その時は単なる夢に過ぎなかったこの道が、今では、多くの人々と手を携え、豊かな前進をしながら歩んでいくことに万感の思いがあります。

サンビレッジのシンボルマークである太陽は、小さな炎が無限大に広がっています。国民の一人一人が尊厳という言葉ではなく、実態を知り、心のそこから「生きててよかった」と思える社会になるまで、炎は広がり燃え続けていくことでしょう。

30周年記念企画

中村局長と対談

から4兆8000億円に、1兆2000億円増加したのです。'90年から今の約15年間で、いくらだと思います?? 9兆4000億円増加したのですよ。約5倍ですね。

石原 へえー。

中村 福祉は9兆4000億円増加。医療は9兆1000億円増加です。福祉の方が増えているのです。

社会保障に占める福祉の比率は'70年代、'80年代と低下し、'90年には11%に落ちて

いましたが、以後増加に転じ、今は16%に上がった。僕たち

頑張っているでしょ?'90年以降の改革はこのように数字に

その過程がはつきりでています。

石原 でもうれしいですね。その時代に現場をやつていて、それについていける私たちは。

中村 現在は障害福祉に取り組んでいます。その行政

の個室割合が1割だったの

を3割までは拡大しました

が、個室を全面的に認めるまでにはなりませんでした。

石原 でも、国の方がそういう事言われるのって感動しますね。「やつた。やつてきた!」と言ふことが多いのに、そう

言えることは実力のある人だから言えることだと思いま

す。で聞いてる方もこれはホ

ントのことだな、と関心をもつ。「よし、やるぞこれから、つて意気込みが感じられすごいと思う。すごく感動してう

れしかった」昨日の講演を聞いた人が言つてました。

自由契約制特養について

中村 スウェーデンから帰つ

てきてから個室に興味があ

りました。課内会議でも、当

時の老施設の幹部の皆さん

にも意見を聞きました。で

も皆、「今の老人には個室は

むいてない」とかいつて反対で

した。そこで、たしか整備費

を3割までは拡大しました

が、個室を全面的に認めるまでにはなりませんでした。

中村局長との出会い

中村 30周年おめでとうござります。

石原 ありがとうございます。

中村 ありがとうございます。皆様のお陰でこの日を迎えることができました。最初の出会いは辻さん(当時厚生省老人福祉課長)が中村さんを紹介して下さったことを鮮明に覚えてています。

中村 今から振り返ると'90年から変わっているんです。'80年から'90年までの10年間、福祉予算は3兆6000億円

創立30周年記念として、厚生労働省・社会援護局長中村秀一様と当法人理事長石原との対談を企画いたしました。出会いから今日に至るまで、憚なくお話を願いたいと思います。よろしくお願ひします。

中村 '90年に法律通ったのですが、'93年までマニュアル作りに奮闘してました。

石原 だからいつも厚生省へ行くと、ワイシャツの腕まくりをして、皆集めて何だかんだと話し合ってみえたんですね。日本の福祉制度をこうゆうふうにやってくださる方がいるからありがたい、と思つていきました。

中村 今から振り返ると'90年から変わっているんです。'80年から'90年までの10年間、福祉予算は3兆6000億円

それでしょうがないなと思つていましたが、その間に「どうもお金を払つても個室つていう人もいるんぢやないか」ということで、契約型特養つていうのができたんです。国から何も出してないんだから文句ないだろうってことでね(笑)。

石原 お金は出さないけど、個室にしろとか契約金は3ヶ月以上預かつたら駄目とかね、言いたい放題(笑)。で、皆に言されました。お金もらわずにそういうことだけ言われてあなたやるの?って(笑)。借金もし、地元でも叱られ、四面楚歌つて感じで、ほんとに色々ありました(笑)。

でも私は、その自由つていう言葉にひかれたの。縛りだらけの措置の時代に自由なんて、これは利用者にはうれしい話だつてね。その言葉に惹かれて釣られてやつてね。苦労しました。

中村 僕らの構想はアネック

スだったの。温泉旅館のだいたい本館がぼろぼろで新館が新しいでしよう、アネックスで新しいのをつくつて(笑)。で、簡単な絵を描いたのです。

石原 小学生でも描けるような絵でね(笑)。

中村 そうそう(笑)。誰も描いてくれないから僕が描くとああいう絵になっちゃう(笑)。石原 でもあれば、職員の頭をコロッと変えるのに役立ちました。その時代お金をいくらもらっているのかなんて知らずにやっていたのが、経営という課題が、ドーンとてきて、皆で借金返すんだよ!!ってね(笑)。法人の自立の課題が見えました。

石原 いえ、怖いです(笑)。
司会 経営という意味がわ

かつたので、出入り自由だけど出でいかれたら困る。厳しい条件がかえつて職員の専門性を高める為にも勉強になりました。

中村 その後、これからはユニットケアが原則だと考え、先行的にユニットケアをやつていら所を見て歩いていたのです

が、見て歩くと外山作品が多くあつた。そういうえば、サンビ

レッジに新型特養、ユニットケアの原型がもうすでにあつたということを発見しました。

石原 そうなんですよ。

中村 やつぱり俺たち時代を読んでいいことやつたんだ(笑)。

石原 そうです。そう思っています。今ようやく制度として動き始めて、時代の方向性を決めてほんと良かつたと思いますよ。

くための方法「自己決定と専門性」っていうのが必要かなと思いました。

中村 そうそう。スウェーデンもサービスハウスっていうのは個室が基本です。ところが、引きこもりになつてどうしようとしないので介護単位を小さくして引きこもりをなくすのが、スウェーデンのユニットケアですね。





なり、「尊厳を支えるケアの確立」ってドーンと「2015年の高齢者介護」が出ましたね。

中村

あれはとにかく、改革のコンセプトをね、出さなきやダメだと思つて。

石原

理念ですねー。

中村

そうそう。なんで在宅じゃなきやダメなのか。なぜこういうケアじやなきやダメなのかを突き詰めて原点がちゃんと書いてあるんです。

石原

そこで「尊厳」。人を最後まで人として認める尊厳つてね。すごくうれしかったですね。制度つていうのは本来何を目標にするかがあるて、その目的を達するための方法論として制度がある、だから時として動きますからね。

大変。でもこうやって、社会の制度もだんだん進化していくのですね。

中村 そうそう。

「尊厳を支えるケア」について

石原 私たちは、ユニットケア+公民館みたいに皆でホーム全体を使いあつてね。個室でもユニットでもどんどん地域にでて色んな人と出会うの。もしユニットだけの暮らしだつたら、私だったらそのユニットに閉じ込められてユニットのメンバーが気にいらなかつたら大変。でもこうやって、社会の制度もだんだん進化していくのですね。

中村 そうそう。だから時として動きますからね。

国がドーンつて目標を掲げてくれて。利用者側に焦点を当てる積み上げていけば軸は

動かない。私たちが目指してきたものと同じだなー、と嬉しかつたです。

私たちも最初は、寝たきりになつてるのはそういうものかと思っていました。じゃーなんでオーストラリアにはベッドに誰もいないのよ、

どうしてオムツをしていないのという話でしょ。で、その結果がどこに繋がつているの、と考えたら、人間の尊厳だった。

本来の介護を味わつたこと

人たちの尊厳を我々がどう支えていくかっていうこと。

石原 考えてみたら、自分たちが尊厳つていうのを日常生活の中で会得してないのに尊

厳つていうのを解釈しなきやいけないわけですよ。オーストラリアの人の介護している人とされている人とのなんと

いうのを作つているのかもしないけど、より高い本当のものをいかに拡げていくか、

司会 何も言えなくなつたすよね

石原 その次に局へ戻られる





中村秀一氏 ●プロフィール●

昭和48年	東京大学法学部卒
平成 2年	厚生省入省
4年	老人保健福祉部老人福祉計画課長
7年	年金局年金課長
8年	生活衛生局水道環境部計画課長
10年	保険局企画課長
平成13年 1月	大臣官房政策課長
平成14年 8月	厚生労働省大臣官房審議官 (医療保険、医政担当)
平成17年 8月	厚生労働省老健局長
	厚生労働省社会援護局長就任

思う。自分たちが燃えつきて潰れてしまつたり。

だから逆に私たちは謙虚になつてホントは尊厳なんてわかつてないと考えたほうがあつたのかな、と。理念つて太陽みたいに傍で掴むものではなくて、そつちを見て育つていくもんだと思うんですけど。

「尊厳」というテーマは、やはりスウェーデンからですか？

中村 うーん、ま、そうかな？ それこそ、こちらが30周年つて言いますけど僕も役所で

30年以上経ちます。最初に役所に入ったときに、老人福祉課で、'73のことでした。

そのあと、スウェーデンに行って、帰ってきて'90年に老人福祉課長になりました。そこで

で、'90年の改革を担当したものですから、今回の介護保険手直しの時には、やっぱりそれがなりの経過もあるから、'90年の時にやれなかつたことをやらないとダメだと思った。課長時代と同じことでは、意味がない(笑)。

それでもそれくらいの思いをかけてスタートさせて、日本の中に少しずつでも「尊厳の文化」が芽生えていくようにしなければ。そうする為にも今回発行する30周年誌はそういう方向で創ろうと思つたのです。

なんとか「尊厳」を目に見えるようにしていかないといけないですもんね。

今後に向けて

司会 ここで中村局長より

新生会に期待されることつて、

二言いかがでしょうか？

中村 今まで通り、変わらず

石原 人としての尊厳が守られる、そのためにそこに色々な制度がくついてくる。これは、私は画期的なことだとと思うし、国民にとつてすごい幸せなことでしょう。

デンマークのカルンボーエ市長さんが「福祉国家を造るのに100年かかりました」とおっしゃったけど、それでもそれくらいの思いを

かけてスタートさせて、日本の中に少しずつでも「尊厳の文化」が芽生えていくようになります。そうする為にも今回発行する30周年誌はそういう方向で創ろうと思つたのです。

ございました。

石原 来た数を数えずに、こ

こは番外地つていうことで何度も来てください。

中村 ありがとうございます。又、来ます。

に、積極的であれ(笑)。30年に、積極的であれ(笑)。30年経つたからと言って、安住しないで、そんなことはないと思いますが、常にチャレンジで。

司会 局長の新しいものにチヤレンジしていくそのエネルギー

はどこから生まれてくるんですか？

中村 每晩飲むお酒ですかね(笑)。

いやいや。皆さんの仕事が究極のサービスのケアのようになり、僕らの仕事も制度・政策をよくするのが仕事ですかね。単に仕事してるだけではありません。本当に仕事してただけで遊びに来てください。

司会 じゃ、我々もこれから

も究極の仕事、頑張りますので見ててください。是非また遊びに来てください。

今日は本当にありがとうございました。

西暦	月	（昭和五）	一九七六	一九七七	一九七八	一九七九	一九八〇	一九八一	一九八二	一九八三
		四月十五日	在宅独居老人を招待し、食事会式（定員100名）	台風十七号で長良川が決壊	王選手世界最高の七五六号	ホームラン	石原施設長就任	機関誌「陽の里」第一号発行	ボランティアコーディネーター配置	在宅老人調査を行う
八月	七月	五月	増床（全110床）	「いこいの家」（売店・喫茶兼茶室）開店	英で初の女性首相（サッチャー）誕生	在宅老人のための入浴サービス開始	職員のオーストラリア研修始まる	ショートステイ開始	徘徊老人のデイサービス開始	県の許可で苑単独ショートステイ発足
十月	二月	四月	（昭和五五）	（昭和五五）	四月	五月	八月	四月	七月	八月
八月	七月	四月	（昭和五五）	（昭和五五）	四月	五月	八月	四月	七月	八月
			ボランティアスクール開校	訪問看護はじめる	老人保健法	東京ディズニーランドオープン	ホテル・ニュージャパン誕生	チヤールズ皇太子・ダイアナ妃結婚	毎日ボランティア誕生	介護者教室始める

一九九二	四月	七月	十月	一九九一	四月	七月	九月	一九九〇	四月	七月	九月	一九八九 (平成元)	四月	七月	九月	一九八八 (昭和六〇)	四月	七月	九月	一九八七	四月	七月	九月	一九八六 (昭和六〇)	二月	八月	十一月	一九八四			
石原理事長就任(施設長兼務)	老人訪問看護サービス	オーストラリアのQECと姉妹提携する	ソ連邦消滅	東西ドイツ統一	十五周年記念「あつたかい手と手」発行	在宅介護支援センター開設	製作	(撮影)一九八八年十月～一九八九年十二月	ウォーターチェアをオーストラリアより輸入し、日本で	高齢者保健福祉推進十か年戦略	家族の会発足	「安心して老いるために」公開	(撮影)一九八八年十月～一九八九年十二月	高齢者保健福祉推進十か年戦略	消費税スタート	昭和天皇の大喪の礼」行われる	痴呆専用棟すずらん棟完成(130床)	社会福祉士及び介護福祉士法	痴呆専用棟すずらん棟完成(130床)	デイサービスセンター開設	老人保健法改正	男女雇用機会均等法施行	「生きてよかつた」発行	十周年記念「現世に老人の極楽を(10年の歩み)」発行	日航機墜落	迷い老人の保護で池田町有線放送と連携	県下初の障害者専用列車「ひまわり号」が走る	健康保険法改正	委員会発足	痴呆老人が安心して暮らせる町づくり推進	「私のオーストラリア」発行



二〇〇七	十月	四月	六月	二〇〇五	二〇〇六	三月五日	十月二十三日	十一月三十日	二〇〇三 (平成十五)	五月	七月一日	十月九日	五月三十一日	四月十五日	十一月	六月	七月	八月	二〇〇一	二〇〇二	四月	五月	六月	七月	二月	四月	十月	一九九九
岐阜シティワールド43医療福祉施設開設予定	サンビレッジ大垣・サンビレッジフレーズ開設	新潟県中越地震発生震度6を4回記録	「尊厳を支えるケア」をめざして 創刊	改正介護保険法成立	もやいの家(泉)	耕一氏に	ふるさと福祉村「校舎のない学校」開始	サンビレッジ宮路(弥生・ちやほば)	「サンビルズ ヴィラアンキーノ」	もやいの家(藤代)	ノーベル化学賞 島津製作所勤務のサラリーマン田中耕一氏に	2002 FIFAワールドカップ日本韓国史上初の共同開催で開幕	学科開校	創設25周年記念式典「あいはぶあどりーむ」発行	サンビレッジ国際医療福祉専門学校言語視聴覚学科開校	グループホーム「木もれびの家」(定員6名)開設	すずらん棟でユーットケア「和」開始	シドニーフイブ輪女子マラソンで高橋尚子選手が金メダル	ユーット式デイセンター「あじさいの家」開設	電子手帳導入とオンライン化する	ゴーランドプラン21	介護保険制度がスタート	赤いポストを施設内に設置	揖斐広域ケアネットセンター受託	壁画の作品をカレンダーにする	東西の一、二階にサロンを増築		



祝三十周年寄せ書き

現代の激しい競争社会にあり、ここはやうすが
価値をもつて三十年、地域社会に発信
していくべき職場です。私が30年社会の
価値感が力強く育む力がありますように。

河内 澄子

創立三十周年おめでとうございます
がんばれ地域の歩みと同様に私もあります
先代の意を継ぎ自分を先生から学びます
尊敬の胸を切り抜いていきたいと思います
よろしくおねがいします
河内 澄子

福祉マネージャー 村田 章子

三十周年おめでとうございます。

このオーストラリアのクイーンエリザベスセンターとともに正式に十五年の姉妹関係を続けてきました。新規事業のインターネット化などを通じて、素晴らしいサービスを地域に提供しています。常により良い物を求め、高齢者の生活の質向上の為に福祉を最優先とする益々の発展を心からお祈り申し上げます。

プログラムマネージャー 井手マーフィー

バラットヘルスサービス QE

日本一の特養サンビレッジの
三十周年おめでとうございます

これを作り上げられた石原理事長に
友として敬服

ジヤパンアグループ

村馬徳昭

今村先生の顔を胸に三十
家族地域施設で支え合う友会
一石の飛躍をお祈りと申す
池田町長 因崎知夫

福祉の志がもとで三一路
「石立つ矢」の開拓成就へ感謝
浦河町議会議長 岸井登夫

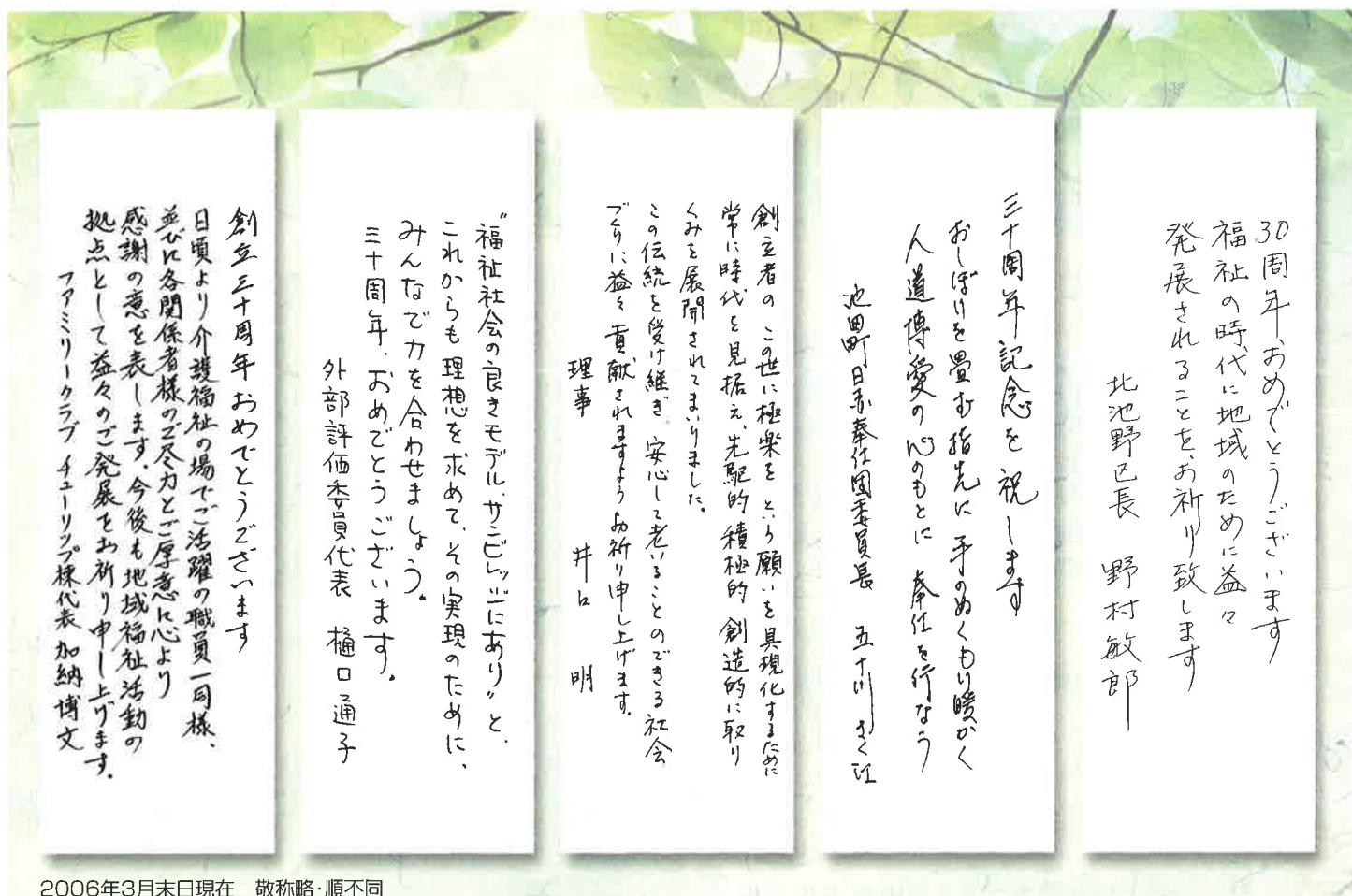
三十周年おめでとうございます。
時代に先駆けての貢献への歩み。
今こそその大功を叶はれる時ですね。
今後も癡癡と皆で歩みゆき幸運をと
へようお祈り申上げます。

田代 章子

石原美和子さんにお会いしてもう20年が
あるときは先輩あるときはお姉さん。あるときは
飲食担当。又あるときは……。どんな時にも
胸は少しやりと歩いている姿は眩しいくらい。
さすまでもう元気で活躍されるよ。お祈り致ります。

最初たまう木

吉田 一平



在宅生活でお困りの方へ サンビレッジの施設サービスをどうぞ

病院から退院してくるけど、
オムツをして介護も大変
になってきた!



ホームケアサービス

お家に帰って生活ができる様に、専門職がサポートし
在宅生活の提案をします。

お家の介護が大変にな
ってきた!
けど、施設入所はまだね。



ショートステイ

今年度より10床増床し利用しやすくなりました。

おばあちゃんが徘徊したり、
失禁したり夜も眠らず介
護をしているのが大変!



アセスメントケアサービス

一時的に施設入所いただき、専門家が関わりながら在宅でのお困りごとを分析しサービスの提案を致します。

入院する事なく最期を
地域で生活したい。
でも、家ではギリギリ。



ターミナルケア(看取り介護)

医師・看護師・介護師が協働して看取り介護を行います。在宅で最期を迎える方に不安の方は、ショートステイを利用しながら看取り介護を行います。

《お問い合わせ》サンビレッジ新生苑担当:若原まで

トピックニュース

TOPIC NEWS

福祉ジャーナリスト 村田幸子氏来苑

2月24日 元NHK解説者でもあり福祉ジャーナリストである村田幸子氏が、サンビレッジ宮路オープン以来2度目の見学に来られました。

今回は瑞穂市の配食サービス視察の後にアンキーノに宿泊されました。朝日新聞論説委員の川名紀美氏と共に。



「安心して老いるために」 映画監督 羽田澄子氏来苑

2月18日 映画監督である羽田澄子氏が来苑されサンビレッジ新生苑を見学されました。「安心して老いるために」以来15年。

現在、次回作を練っておられるところで、工藤さん、演出の佐藤さんと来苑。

サンビレッジを題材に撮影準備をされる予定です。楽しみですね。



30周年記念 「尊厳を支えるケア」をめざして 創刊

30周年を記念して、今回は現場から出てきた事例をもとに、失敗事例から学ぶ50のヒントをまとめてみました。

30年を振り返ると、様々なケアの取り組みから尊厳あるケアを目指して取り組んできたことがわかります。

その証が1冊の本にまとめられました。現場の方、在宅で介護をされている方、これから介護を受けられる方など多くの皆様に読んでいただきケアの参考にしてくださいね。

